羅府新報

(6)　2017年（平成29年）　4月13日（木曜日）

南加キリスト教教会連合

イースター

滝井 ジュン

日本で生まれ育った人にとって「イースター」とは、あまり聞きなじみのない言葉ではないかと思います。

アメリカで何年か暮らしたことがある方は聞いたことはあると思いますが、日本ではあまり聞かないかも知れませんね。私も日本にいた時、聞いたことがありませんでした。

しかし、このイースター、実はキリスト教会ではクリスマスと同じくらい大きなイベントなんです。もしかしたらクリスマスよりも大きな意味があることかも知れません。

クリスマスは、イエスキリストの誕生を祝うイベント。

では、イースターとは？

これはイエスキリストが十字架で死んだ後、3日目によみがえった、復活したことを祝うイベントです。

なぜこれが大事なことなのか？　それは、イエスが死から復活をされなかったら、キリスト教には私たちも復活するという天国への希望がなくなってしまうからです。

聖書は言います、

「もし死者の復活がないのなら、キリストも復活されなかったでしょう。そして、キリストが復活されなかったのなら、私たちの宣教は実質のないものになり、あなたがたの信仰も実質のないものになるのです。（1コリント15：13-14）」

キリスト教信仰の大きな希望は、天国に行くということです。この世でいかに繁栄をするか、富や地位を得るか、ではなく、天国への希望にフォーカスをしています。

もしキリスト教が、天国への確かな希望について何の確証も与えてくれないような宗教であったなら、私は今でもこうしてクリスチャンをやっていなかったと思います。もしイエスが復活されなかったのなら、聖書はただの倫理の本、イスラエルの歴史の本、預言の本、詩や格言の本でしかなくなってしまいます。もしキリスト教が、死後に天国に行けるという確かな希望を与えてくれないものであったなら、それは実質の無いものである、と聖書は言います。そうであったならキリスト教の信仰は空しく、信じても意味がないということになります。

人は、できることなら誰も死にたくはないのではないでしょうか。そして、人は本能的に死後の世界、永遠に続く世界があるということを知っているのではないかと思います。この世がすべてではない、ということを。

キリスト教は、ハッキリと死後の世界のことを言っています。

イエスキリストが死んで復活したこと、それは歴史上の事実です。だから、イエスを信じる者には、イエスが死からよみがえったように、私たちにも永遠のいのちが与えられます。これは神が聖書を通して約束していることです。聖書は神からの契約書だからです。（聖書は、新約聖書と旧約聖書からなっていますが、この「約」とは神からの約束であり契約の「約」です。翻訳の「訳」ではありません）

イエスは言われました、

「わたしはよみがえりです。いのちです。私を信じる者は、死んでも生きるのです。また、生きていてわたしを信じる者は、決して死ぬことがありません。このことを信じますか？（ヨハネ11：25-26）」

また、こう言われました、

「あなた方は心を騒がしてはなりません。神を信じ、またわたしを信じなさい。わたしの父（神）の家には、住まいがたくさんあります。もしなかったら、あなたがたに言っておいたでしょう。あなた方のために、わたしは場所を備えに行くのです。（ヨハネ14：1-2）」

どうか、今年のイースターにイエスを信じ、「神ご自身が彼らとともにおられて、彼らの目の涙をすっかりぬぐい取ってくださる。もはや死もなく、悲しみ、叫び、苦しみもない（黙示録21：3-4）」という天国への希望を得てみてはいかがでしょうか。

（カルバリー・チャペル La Habra）